



F D用語集 [アイウエオ順]

- ❖ **アカデミック・ハラスメント（アカハラ）** [academic harassment]
大学などの研究教育機関において、教師がその権力を濫用して、学生や配下にあたる教師や職員に対して行うさまざまな嫌がらせやいじめのこと。
- ❖ **アクティブ・ラーニング** [active learning]
旧来からの教員から学生への一方的な受動的な講義による授業ではなく、受講生みずからが能動的に学習に参加できるよう工夫された教授法のこと。具体的には、発見型・問題解決型・経験型・調査型の学習方法がある。
- ❖ **アクセデーション** [accreditation]
大学相互の質の向上・確保のために導入された第三者評価制度、また民間認定協会（例えば、財団法人・大学基準協会など）が公認した大学のこと。
- ❖ **アドミッション・ポリシー** [admission policy]
入学者受け入れの方針のこと。各大学・各部等において、その建学の精神や教育理念、特色などに基づいてどのような教育活動を実施し、どのような能力・適性などをもった学生を受け入れようとしているのかなどについての考え方を示したものの。
- ❖ **eラーニング** [electric learning]
パソコンやインターネットなどを利用する教育形態のこと。遠隔地への教育の提供、関連コストの削減、受講生の進捗度の一括管理、学習効率・効果の向上などの利点がある。
- ❖ **インターンシップ** [internship]
在学中に学生が、企業や官公庁等で将来のキャリアに関連した就業体験をする産学共同の人材育成プログラムのこと。
- ❖ **SD** [Staff Development]
FDと並行して実施される、教育効果向上を目的とする事務職員や経営管理者の能力開発施策のこと。
- ❖ **FD** [Faculty Development]
教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称。具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などがある。
- ❖ **FD義務化**
2007年までFDは努力義務であったが、2008年からFD実施は義務化された。
- ❖ **オフィスアワー** [office hour]
学生が学業や進路をはじめ学生生活全般に及ぶ質問や悩み事を教員に相談するために設けられた授業時間以外の時間帯のこと。
- ❖ **学習成果**
学生が、授業科目、プログラム、教育課程などにおける所定の学習期間終了時に獲得し得る知識や理解、技術、態度などのアウトカムレベルの成果を指す。「教員の視点にたった教育 (teacher-centered education)」から「学生の視点にたった教育 (student-centered education)」への転換が国際的な流れとなっている今日、大学は、学生が習得すべき学習成果を明確に示すことにより、「何を教えるか」よりも「学生がそのカリキュラムによって、どのような能力が身に付くのか」が重要視されている。それぞれの学習成果は具体的に、測定や評価が可能なものであることが求められ、学習成果の評価（アセスメント）

と結果の公表を通じて、大学の社会に対する説明責任が高まることが期待されている。最近では、わが国の大学が社会の発展を支える人材を育成するという社会的使命を十分に果たす上で、その基盤となる学士課程教育において学生が専攻分野にかかわらず共通に身に付けるべき学習成果を明確に示すとともに、学習成果の達成を目指した教育内容・方法の充実改善を図ることが強く求められている。

❖ 学士力

中央教育審議会が、大学卒業までに学生が最低限身につけなければならない能力を「学士力」と定義し、国として具体的に示す素案をまとめたもので、「学士課程教育の構築に向けて（答申）」で示されている。

「大学全入時代」の到来を迎え、「大卒者（学士）」の質を維持する狙いがあり、主な内容は、「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」「総合的な学習経験と創造的思考力」の4分野で構成されている。

各大学に対しては、大卒の水準維持のため、学部別や全学的な卒業認定試験を実施することなどを提案し、厳格な卒業認定を求めている。

❖ カリキュラム・ポリシー [curriculum policy]

教育の実施に関する基本的な方針のこと。ディプロマ・ポリシーを保証する体系性と整合性が担保されたカリキュラムで、カリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップのともに改善が図られるもの。

❖ カリキュラム・マップ

学生が科目と科目の関連を理解したり、コースや教育課程全体の学習構造を俯瞰できるように、カリキュラムを図式化したもの。

❖ 機能別分化

各大学が保有する幾つかの機能の比重の置き方の違いを踏まえて、各大学の個性化・特色化を推進し、教育研究の充実、高度化を図るとともに、わが国における大学全体としての多様性の確保を図ることをいう。大学は、世界的研究・教育拠点、高度専門職業人養成、幅広い職業人養成、総合的教養教育、特定の専門分野（芸術・体育等）の教育・研究、地域の生涯学習機会の拠点、社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）などの各種機能を併有するが、各大学自らの選択に基づき、これらの機能すべてではなく一部分のみを保有するのが通例である。

❖ キャップ [CAP] 制

単位の過剰登録を防ぐために設けられる履修科目登録上限制のこと。

❖ 教員評価

研究教育活動の活性化や昇格・報酬・表彰などの人事考課を目的して、教育活動、研究業績、大学運営、社会貢献などについて教員を評価すること。

❖ 教養教育

縦割りの学問分野による知識伝達型の教育とは異なり、学問分野の枠を越えて共通に求められる知識や技法について幅広い科目を提供することにより、様々な角度から物事を見ることができる能力や、自主的・総合的に思考し、的確に判断する能力を培うことを目的とし、豊かな人間性を養い、自分の知識や人生を社会との関係で位置付けることのできる人材を育てることを理念とする教育。

❖ くさび型カリキュラム

専門教育ならびに教養教育の同時に4年間通じて履修できるカリキュラムのこと。

❖ **コア・カリキュラム**

各大学において実施されている、カリキュラム編成上の主となる科目群。

❖ **CALL (コール)** [Computer Assisted Language Laboratory]

コンピュータやネットワークを利用して、より幅広い外国語学習の実践を目的とするコンピュータ支援言語学習のこと。

❖ **CAI** [Computer-Aided Instruction]

eラーニングに類似した用語で、コンピュータを教育に用いるコンピュータ支援教育、またそのためのソフトウェアやシステムなどのこと。

❖ **GPA** [Grade Point Average]

欧米で一般的に用いられている成績評価法で、学生の成績評価を5段階 (A, B, C, D, F) で評価し、それぞれに対して4, 3, 2, 1, 0といった点数より算出される、ポイントの単位あたりの平均点のこと。学生の成績管理や海外留学の際の出願基準などに利用されている。

❖ **質保証**

高等教育機関が、大学設置基準等の法令に明記された最低基準としての要件や認証評価等で設置される評価基準に対する適合性の確保に加え、自らが意図する成果の達成や関係者のニーズの充足といった様々な質を確保することにより、高等教育の利害関係者の信頼を確率することを指す。国境を越えた教育提供の活発化等による国際的競争環境下における高等教育の質保証についても重要な要因となっており、大学設置認可制度等の事前規制、自己点検・評価や認証評価制度等の事後評価等を通じて、高等教育の国際化に対応するため、高等教育機関の質の向上や多様化・個性化の推進とともに、それぞれの制度自体の改善向上も重要となっている。

❖ **JABEE (ジャビー)** [Japan Accreditation Board for Engineering Education]

日本技術者教育認定機構のこと。同機構は、技術系学協会と連携し、技術者教育プログラムの審査・認定を行っている。ここで認定された技術者教育プログラムは国際的に通用することが保証されている。

❖ **授業評価**

教授力を向上させる取り組みであるFDや自己点検・自己評価の一環として実施されるもので、一般的に学期末に実施される授業評価アンケートにより、履修動機・授業の内容・方法、受講態度、全体的評価などが評価される。

❖ **初年次ゼミ** [First Year Seminar; FYS]

早期に大学生活へ順応させ、大学生であるという自覚を促し、共同・集団作業を通じて基礎学力やマナーを身にさせることを目的として、1年次にゼミに入れること。

❖ **初年次体験** [First Year Experience]

主に大学新入生向けに催されるガイダンスや各種の教育プログラムのこと。

❖ **シラバス** [syllabus]

授業科目などの開講科目について、講義の目的・内容、講義の回数・スケジュール、指導方法、成績評価の方法、テキスト・参考書などを記した従来の講義要項にとどまらず、各回の授業のテーマや予習事項など、事前に立てた授業計画表のこと。それは教師と学生の一種の契約書とも言えるものである。

❖ **セクシャル・ハラスメント (セクハラ)** [sexual harassment]

企業や組織などにおいて、上司にあたる者がその職権を濫用して、部下などに対して相手が望まない性的な言動や性差別につながる言動により、肉体的・精神的苦痛を与えること。

❖ **大綱化**

1991年の文部省 (現文部科学省) の大学設置基準の「大綱化」のこと。大綱化により、わが国の大学は以前よりもかなり自由に教育・研究活動ができるようになったが、一方

で、自己点検・評価とその公表が義務づけられるようになった。F D活動はその一連の流れに沿ったものである。

❖ **ダブルディグリー 制度**

共同学位制度。2つの大学・大学院もしくは学部・研究科等に一定期間在籍し、一定の成績を修めた場合、両方の学位を取得できるプログラム。デュアルディグリー制度ともいう。

❖ **単位制度の実質化**

各授業科目の単位数は、大学設置基準により、1単位の履修時間を教室内（授業時間）および教室外（自習時間）を合わせて45時間となっているが、授業科目によっては、その内容・質が大学の授業として不十分であるとか、学生が自習することなく単位が取得されている状況を改善するためのさまざまな試みや取組のこと。

❖ **チューター制度（チュータリング制度）**

在学生・教職員等が学生に対して、学習や生活上の精神的サポートとして、支援・助言を個別に行う制度。主に外国人留学生に対して個別の課外授業を行うなど、留学生の学習、研究効果の向上を図る制度を指すことが多い。

❖ **ティーチング・アシスタント [Teaching Assistant; T A]**

授業科目において、関係教員の指示に従い教育補助の業務を行う者のことで、一般的には大学院生が担当する。その目的については、1992年に当時の文部省から通知された「TA実施要領」によれば、①教育的配慮の下に教育補助業務を行わせ、学部教育におけるきめ細かい指導の実現、②将来教員・研究者になるためのトレーニングの機会の提供、③手当支給による大学院学生の処遇改善の一助があげられている。なお、教育補助員は、一般的に大学院生のT Aと学部学生のS A (Student Assistant) とに区別されているが、教育補助という点では共通点も多いが、どちらかというT Aは、専門知識を生かした学生への指導の補助、S Aは出席管理や資料の配布等の事務的な業務を担当している場合が多い。

❖ **ティーチング・ポートフォリオ [teaching portfolio]**

教師が自らの教育活動をまとめたもので、自らの授業改善に利用したり、教育能力の評価を評価・査定したりするために作成される。

❖ **ディプロマ・ポリシー [diploma policy]**

卒業認定・学位授与に関する基本的な方針のこと。学部・学科が教育活動の成果として学生に保証する最低限の基本的な資質を記したものの。

❖ **導入教育**

ゆとり教育や学習時間不足などに起因する高卒者の基礎学力の低下を補うために、大学入学後に行われる補習教育のこと。ちなみに、基本的に高校と大学とではその学習スタイルが異なるため、その点を認識しておこなわれるのが転換教育である。

❖ **パワー・ハラスメント (パワハラ) [power harassment]**

企業や組織などにおいて、上司にあたる者がその職権を濫用して、部下などに対して行うさまざまな嫌がらせやいじめのこと。とくに大学の学内で教授や教職員が学生や配下の職員に、また運動部などにおいて上級生が下級生に対して地位や権力などを利用して嫌がらせるアカデミック・ハラスメント (アカハラ) が問題視されている。

❖ **P D C A サイクル [plan-do-check-act cycle]**

生産管理や品質管理に用いられる管理手法の1つで、計画し、実行し、検証し、改善するという一連の循環過程のこと。最後の改善を計画にフィードバックしてさらなる計画に結びつけ、品質の維持・向上などを行う手法のこと。

❖ **リメディアル教育 [remedial education]**

大学教育を受けるのに不足している学力、つまり高校で習得していなければならなかった学力を大学で補う補習授業のこと。